



平成7年2月



個を生かし、育てる

上智大学教授 加藤 幸次

教育という観点から個とか、個性とか、特性とかについて考えるとき、そこには二つの概念がある。一つは、個とか、個性とか、特性とかを「手段」概念としてとらえる場合であり、他の一つはそれらを「目的」概念としてとらえる場合である。

まず、前者について考える。教師は、常に「指導」したいと考えているものである。すなわち、教師は指導のねらいをもって、「このことを教えたい」とはっきり意識している場合が一般的である。この観点からすると、子どもたちのもっている個、個性、特性というものは自分の指導のねらいに達成させるための「手段」と意識されるにちがいない。子どもたち一人一人のもっている特質を「生かして」自分のねらいを達成することになる、と言い換えてもよい。個、個性、特性を「生かす」には、このような目的に対する手段を意味していると考えられることができる。このことを「個別化」という言葉でとらえてきたはずである。

次に後者について考える。教師は、前述のように願うが、しかし、同時に、子どもたちのもっている

個、個性、特性を伸ばさせてやりたいとも考えているものである。すなわち、教師自身のもつねらいというのではなく、子どものもつ「発想」や「いいところ」や「持ち味」を伸ばしてやりたいとも意識するものである。この観点からすると、子どもたちのもっている個、個性、特性というものは伸ばされるべき対象そのものなのである。すなわち、それらは「目的」そのものであり、「育てる」対象ということになる。このことを「個性化」という言葉でとらえてきたはずである。

教育という観点から個とか、個性とか、特性とかいった一人一人の子どものもっている特質を考えようとするとき、この二つの概念に峻別してとらえる必要がある。すなわち、個、個性、特性を「生かす」とともに「育てる」ことを同時に考えるべきである。

なにが基礎基本かは別として、全員共通して学ばねばならないことに関しては「手段」概念を適用し、一人一人の特質を伸ばすことに関しては「目的」概念を用いて対処することになる。両者のバランスの取れた状態こそ教育の望ましい在り方ではないか。

研究紹介

小学校社会科における資料活用能力を育てる学習指導

—第5学年「工業生産と公害」の授業実践を通して—

広島市教育センター指導主事 吉竹 邦昭

情報のネットワーク化が急速に進んでいる昨今、情報活用能力を育てることが学校教育にも求められています。資料を調べて課題解決することの多い社会科において、この情報活用能力と深くかかわるものに資料活用能力があります。資料活用能力は、課題解決する上で重要な力となるものであり、学習の過程で育てる必要のある力の一つであると考えます。

本研究では、資料活用能力に着目しその力を育てる指導の在り方を授業実践を通して探りました。研究の中から、資料活用能力を育てる指導のポイントを紹介します。

資料活用能力の要素

資料活用能力は、次のような要素をもっています。

- ・資料を収集・選択する力（活用する目的に応じて多種多様な資料を収集し、その中から適切な資料を見つけだす力）
- ・資料を読みとる力（資料から事実や傾向性を読みとったり、資料間の異同や関連性などを発見したりする力）
- ・資料をつくる力（学習したことの概要や導きだした結論を資料化する力）

つまり、資料活用能力は、どの資料が活用できるかを判断し、活用して情報を獲得し、それを二次情報として資料につくり変える力と言えます。

資料で調べる学習活動と他の学習活動との関連

本研究では、小学校第5学年の「工業生産と公害」の授業実践を通して、資料活用能力を育てる指導の在り方を探りました。その際、次のような学習活動を取り入れながら進めていきました。

- ①有害ごみを焼却して、出る煙の色を観察したり、臭いをかいだりする活動（公害に対する問題意識の喚起、公害に関する資料収集への意欲付け）
- ②騒音、大気汚染、水質汚濁に関する実地調査をし、

結果を資料にまとめる活動（資料の収集、資料の作成）

- ③資料から、広島市の生活環境の実態とその原因を調べる活動（資料の分析）
- ④調べたことを資料にまとめ、まとめたことを学級全体で検討する活動（資料の作成、資料分析の吟味・検討）

このほか、いわゆる産業型公害の実態やその原因、公害防止のための国等での取り組みについても③、④と同様な学習活動を取り入れました。なお、吟味・検討した結果、疑問に残ったことや不明確なことについては、再度児童全員で資料分析したり実地調査したりしました。

資料活用能力を育てる主な教師の支援

資料活用能力を育てるとともに、学習内容の理解を深めるために、次のような支援を行いました。

- ・児童と共に学ぶ資料の読みとり
児童の実態に応じて行い、児童が資料を読みとる際のつまづきを把握し、段階を踏んで指導をする。
 - ・資料の提示
児童の資料の読みとりが平面的、一面的にとどまっている場合、より具体的な資料や多面的に考えられる資料を提示する。しかし、提示する資料は必要最小限にとどめる。
 - ・板書の工夫
児童の導きだした結論やその根拠、また相違点を児童が明確に把握できるようにする。
 - ・児童の作成した資料の評価と活用
児童が作成した資料のよさに気付くことができるような評価を行う。また、学習内容の理解を深めるためにも児童の作成した資料を積極的に活用する。
- 以上のような手だてを講じたことで、学習が目的的で、主体的なものとなるとともに、学習の過程で資料活用能力を育てることができたと思います。

工夫してみましょう 図画工作科(小)

○「造形遊び」と環境づくり

「造形遊び」では、子どもたちが解放され主体的に思い思いに活動できるようにすることも大切です。そのためには、次のように環境を整備することが重要となります。

- (1)予想される活動に適した十分な広さの空間を準備する (場の環境)
- (2)題材に合った材料を十分そろえる (材料環境)
- (3)材料に合った用具を十分そろえる (用具環境)
- (4)認め合える仲間づくりと、保護者の十分な支援が得られるようにする (人的環境)
- (5)2時間単位にとらわれることなく、臨機応変な対応をする (時間環境)
- (6)発想が広がり意欲がわくような題材名・発問等を工夫する (情報環境)

このような、いわゆる造形環境に工夫を凝らして、楽しく実践してみてください。

取り組んでみましょう 特別活動(中)

○ 学級活動の指導

学級活動で「生徒個人の不安や悩みの解消」や「望ましい人間関係の確立を図る」などの指導を行う場合、様々な資料や情報を活用した話し合いや発表が、自主的に行われるようにすることが大切です。

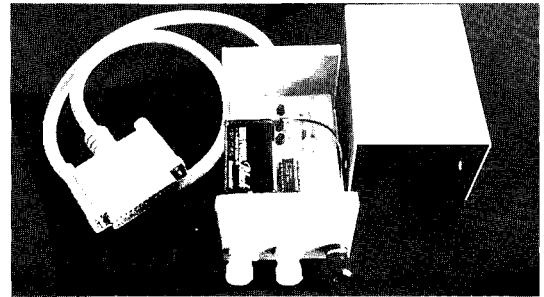
そのためには、①生徒の実態等を十分に把握し、共通な課題を設定する ②一人一人の個性が生かせるような小集団や係を編成し、活動させる (資料作成、話し合い、発表) ③一人一人の活動する場と機会をつくる ④互いの立場を認め合い、民主的な話し合いができる雰囲気を醸成するなどの観点に立って根気強く指導していくことが必要です。また、その際一人一人の個性や立場を認め、生徒の気持ちを受け入れようとする教師の受容的な態度や姿勢が最も大切なポイントになってきます。

使ってみましょう 理科(高)

○ 簡易A/Dコンバータ

高等学校へコンピュータが整備され、理科の学習においても、積極的な活用が望まれています。その際、コンピュータを観察・実験の道具として活用する視点も重要です。

デジタル信号を処理するコンピュータに、アナログ信号である観察・実験の計測データを入力するための「簡易A/Dコンバータ」を製作しました。製作費も安く、教師の演示実験はもちろん、生徒実験にも利用できます。



紹介します 障害児教育

○ 発声・発話トレーニングシステム

聴覚や言語に障害をもつ子どもの指導に、コンピュータを活用してみませんか。子どもに興味・関心をもたせ、意欲的な活動を促し、進んで取り組もうとする態度を育てることにつながります。

今回、教育センターで新しく購入したコンピュータによるトレーニングシステムを紹介します。これは、聴覚や言語に障害をもつ子どもの発声・発話のためのものです。

自分の声をグラフィック表示し、ゲーム感覚で発音の練習ができます。子どもとのコミュニケーションを高めることにも効果的です。また、練習の結果や音声の分析ができることから、子どもの実態を適切に把握することができます。教育センターのコンピュータ研修室で利用できます。

話題の広場

○
○
○

○
○
○

教養講座

民話のこころ

俳優 沼田 曜一

昨年、12月5日、講師として俳優の沼田曜一先生をお迎えし、アステールプラザで教養講座を開催しました。たくさんの民話を語りで紹介しながらのお話で大好評でした。講演内容を要約して紹介します。



民話の魅力にとりつかれてもう30年近くになります。病気でしばらく仕事から離れたのをきっかけに、自分らしい生き方を求めて旅に出たのが始まりでした。手づくりの紙芝居や一人舞台の道具を車に積んで施設慰問の旅を始めたのです。人との出会い、自然との出会いがありました。特に、山峡の露天風呂や農家の囲炉裏ばたで聞く民話には、新鮮な魅力を感じました。それ以来、旅で民話を採集し、それを舞台で語るという営みを続けて今日まで来ました。

日本の民話にはおらかなユーモアがあり、自然をとらえる鋭敏な感性と表現の豊かさがあり、人や自然に対するやさしさがあります。自然に密着し自然と調和して生きた先人の暮らしの中から生まれたものです。このやさしさ、美しさは次の世代にぜひ語り伝えていきたいことです。

語りの原点は母親の愛の言葉です。一つの言葉が人を幸せにします。民話の世界を借りて語ることによって、子どもにやさしさを教えることができるのではないのでしょうか。昔、学校でお話をしてくださった先生のことは今でも忘れません。先生方もぜひぜひ子どもにお話をしてやっていただきたいと思います。

実践発表紹介（中学校道徳指導講座）

「動作化を取り入れた指導の工夫」

広島市立牛田中学校教諭 大下 恵子

第1学年の道徳の内容項目（自主・自律）の指導に動作化を取り入れました。活用した資料は『二丁目の自動販売機』です。生徒は資料に登場する「明」がどうすべきか悩み苦しむ場面（葛藤場面）で動作化に取り組みました。

資料の中心人物である「明」の役になった生徒全員は、葛藤場面のような自分を自分なりに想像し、「明」に自我関与しながら動作化を進めていきました。その際、教師が「明」と行動を共にした「誠」の役になるとともに、その場面を具体的に想像させるために、「早くその自転車に乗ってこよう」「ほら自動販売機が見えてきたでしょう」などの言葉掛けをしてきました。

動作化を取り入れたことにより、気が重い「明」の気持ちに十分に共感させることができたように思います。

実践発表紹介（社会教育講座）

「公民館事業のネットワーク化」

広島市五日市中央公民館主事 寺尾 一郎

昨年3月に佐伯区内の公民館などがアジア競技大会開催200日前イベントとして「アジア大会応援まつり in さえき」を開催しました。

この事業は、各館などが個別に実施している一館一国・地域の応援事業をネットワーク化（共同で実行委員会を組織し主催する）して取り組んだものです。市民が、一度に多くの外国文化に触れることができ、さらにアジア大会への参画意識も高められると考えたからです。その結果、参加者からの反響も大きく多大な成果を得ることができました。また、職員の責任感と積極性が増し、事業への取り組み方も変化してきました。

事業のネットワーク化は、考えや意見の調整・集約に大変な時間がかかりますが、一つにまとまったときは想像以上の成果を生み出すと考えられます。

＝ 教育相談室から ＝

◎ Q おこたえします ◎ A

乱暴な行動を示し友人関係がうまくいかないA男

Q 小学校5年生のA男は、授業中に隣の児童を鉛筆でつついたり、大声を出したりで落ち着きがありません。また、休憩時間のボール遊びなどでも、自分の思うようにならないと、すぐにかっとなって他の児童をたたいたり、けったりするなど乱暴な行動が絶えません。私が注意すると「僕ばかり注意する」と言って逃げ、素直に注意を聞き入れようとしません。どのように指導したらよいのでしょうか。

A このような行動の背景には、次のようなことが考えられます。

- ・学級内で仲間から認められていない
 - ・学習についていけず学習意欲が高まらない
 - ・教師が児童をいつも否定的に見ている
 - ・教師と児童との間に信頼関係ができていない
 - ・学校や家庭の中で慢性的な欲求不満がある
 - ・感情の発達の未熟さから自己中心的になっている
- 以上のようなことが背景になっていないかどうか、A男をよく観察するとともに、教師も自分自身を振り返ってみる必要があります。

○ 注意を控えて肯定的な言葉掛けをする

A男は、これまでも注意されることが多かったのかも知れません。学校で注意され、家庭でも注意され続けているとすれば、ますます欲求不満はつのるでしょう。なるべく注意することを控え、長所や特技などを認めるようにします。ここで大切なことは、A男の機嫌を取るのではないということです。さりげなく「なかなかいいね」「よかったよ」など、A男の行動に対して肯定的な言葉掛けを行うように努めます。

○ 個人面接を実施する

機会をとらえてA男と個人面接を実施する中で、A男の気持ちを理解し、人間関係をつくっていきます。面接を嫌がることもあると思いますが、「20分だけ話をしよう」など時間設定することで安心感を与えることができます。面接では問題行動にすぐ触れるのではなく、「いま、どんな遊びがおもしろい？」など、A男の関心のあるところから始め、A男の言葉を大切に受け止めながら話を進めます。

○ 学級で友人関係の改善を図る指導を行う

学級で友人関係をテーマとした話し合い活動を行い、集団でのかかわりについて考える機会をもつことも必要でしょう。例えば、「友達を大切にするとどのようなこと」などを取りあげてみます。一人一人の意見を大切にすることで、児童に自分自身を見つめさせます。その中でA男にも集団でのかかわりについて気付かせていきます。

○ 保護者の協力を得る

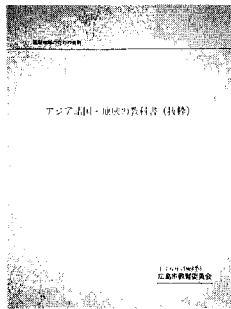
教師は、児童のことで困ると保護者に問題を話し、「～してください」というパターンになりがちです。課題や原因が分かっているところに、さらに追い打ちをかけるような指摘をしても、保護者の不安は増すことはあっても、A男に対して良い影響を及ぼすとは思われません。それよりも、「私も一緒になってA男君のことについて考えていきたいと思います」「何かありましたら、いつでもご連絡ください」など、保護者に安心感を与え、また協力を仰ぐことの方が大切です。

以上のようなことが基本になると思いますが、他の教師と連携を図ることや、場合によっては相談機関に相談することも必要でしょう。

教育センターひろば

紹介

昨年7月、国際理解のための資料として「アジア諸国・地域の教科書探検」を刊行しました。ご活用ください。



コンピュータ教育利用プロジェクト

広島市教育センターでは、コンピュータ教育利用に関する研究を進めるに当たって、次の先生方に研究員をお願いしています。

平成6年度 コンピュータ教育利用プロジェクト研究員

校種	教科	氏名	所属校名
小学校	社会科	周田 光芳	吉島小学校
		中居 芳樹	船越小学校
		穂山 和也	原小学校
	算数科	宮田 稔	深川小学校
		甲斐 清	白鳥小学校
理科	愛甲 良文	可部南小学校	

今年度の教育研究

本年度は22名の先生方が9月から11月の3か月間、教育センター及び在勤校において研究されました。

平成6年度 広島市立学校教育研究生

校種	研究部門	氏名	所属校名
小学校	国語科教育	加藤 泰子	矢野小学校
	社会科教育	小川 健一	翠町小学校
	算数科教育	佐々木知子	三田小学校
	理科教育	川本 通	皆実小学校
	生活科教育	宅見 雄二	牛田新町小学校
	体育科教育	森田 敦子	中島小学校
	道徳	服部 恵	八幡小学校
	生徒指導	福岡 直視	宇品東小学校
	教育相談	松浦 美典	楠那小学校
	障害児教育	首藤 龍啓	亀山南小学校
中学校	教育工学	伊賀崎弘樹	袋町小学校
	国語科教育	高林 英治	瀬野川中学校
	数学科教育	手賀 剛	仁保中学校
	理科教育	三村 正治	鞆町中学校
	音楽科教育	辻村 正志	井口台中学校
	美術科教育	楡崎 洋子	高取北中学校
	技術・家庭科教育	藤田 栄治	江波中学校
	生徒指導	澤井巳吉男	伴中学校
	保健管理	福田 清子	高陽中学校
	理科教育	小林 俊文	基町高等学校
高等学校	外国語(英語)科教育	佐々木礼子	沼田高等学校
	幼稚園教育	金澤美香子	瀬野幼稚園

ご相談ください。

- 「いじめ110番」
いじめについての相談
☎ (082) 223-4420
 - 教育相談
不登校、反抗・乱暴、学業不振、友人関係、
進学・進路などについての相談
☎ (082) 223-4152
 - 教育相談(分室)
障害をもつ子どもの教育上の悩みについての
相談
☎ (082) 264-0422
- 【相談日時 月～金 9:00～17:00】



題字 広島市立国泰寺中学校校長 松陰 正行
表紙絵 広島市立中野東小学校校長 六島 宏

編集後記

年度末を迎え、何かとご多用のことと存じます。
今年度最後の所報をお届けします。今後の指導の充実にご活用ください